

インクル



発行：北海道七飯養護学校 七飯町立七飯中学校

令和6年度から8年度にわたる文部科学省からの委託事業の2年目を迎えるました。

今年度の事業推進のキーワードは、「**フレキシブル**」「**生徒や先生方の主体性**」です。また、今年度の事業推進の**2本柱**は昨年度に引き続き以下の通りです。

交流及び共同学習を発展させた柔軟で新しい授業の在り方の検討



専門性を高めた授業実施のための体制構築の在り方の検討

子どもたちの豊かな学びを支えるためには、この**2本柱**を実現することが望されます。そこで、今年度は、〈インクル実行委員会〉を立ち上げ、3つのグループごとに協議を進めています。

グループ名	業務内容	メンバー
企画推進	実行委員会・連携協議会の企画推進、合同研修会及び成果報告会の企画推進、涉外、会議・研修の日程調整	○三脇、福島、黒田、田中
交流及び授業	交流及び共同学習を発展させた柔軟で新しい授業の在り方の検討	○越智、坂本、子坂、吉田、荻原、実施教科担当教諭
体制構築	現行の教員配置にこだわらない専門性を高めた授業実施のための体制構築の在り方の企画・推進	○根市、鈴木、永長、布施、(七中特別支援教育コーディネーター)

第4回連携協議会が開催されました

5月21日(水)七飯中学校にて今年度最初の連携協議会が開催されました(通算第4回)。



〈山内七飯養護学校長より開会の挨拶〉

本事業が2年目を迎え、「種を蒔いて水をまいてきた」昨年度から、今年度は「芽を出している」ことを喜ばしく思う。「2校舎で一人の校長だったらどうするか」というシンプルな発想で、交流及び共同学習、体制構築、研修の在り方を考えることが重要である。取組の方向性について意見をいただきたい。

〈協議のはじめ 各グループからの説明〉

□企画推進グループ□

第1回教員合同研修会(8/27)案について
テーマ) 魅力あるまちづくりのために
～インクルーシブ教育の視点から
=授業づくりと体制構築によってできること=
I 基調講演(外部講師招聘)
II グループワーク
視点1: まちを輝かせるために子どもたち
の学びや活動によってできることって何
だろう
視点2: まちを輝かせるためにまちの先生
方が同じ方向を向いてできることって何
だろう
視点3: 校種を超えて先生方全てが子ども
たちの先生だったらできることって何だ
ろう
○第4回連携協議会(5/21 七飯中学校)
会議内容は裏面に
○第3回インクル実行委員会(6/19 七養)

□交流及び授業グループ□

グループの目的は、交流及び共同学習を発展させた、柔軟で新しい「授業の在り方」を企画推進することとした。
1. 七飯中体育大会に向けて(5/23)
競技名『インクルーシブ・サッカー』
要領等: 七養生と七中生がペアになってゴールめがけてシュートをする。成功・失敗にかかわらず、笑顔でハイタッチをする。(七中実行委員会生徒が企画・運営をする・・・
当日の様子は裏面に)
2. 今後の交流・共同学習(授業)について
(1) 交流: 11月後半から12月前半に、お互いが交流内容を検討して実施する時間を2時間程度予定している。
(2) 音楽: (10/3 七中学校祭) 『手話歌』
選曲は、教科書の歌唱教材から決めることが考えられる。
手話は、歌詞に合わせて動画も作成する。
(3) 美術: 3学期に『張り子のお面(けっちゃん面)づくり』
制作場所については七中体育館を予定。
(4) その他: 交流・共同学習できうこと『アダプテッド・スポ

□体制構築グループ□

- 令和7年度の事業内容の確認
(1) 互見授業の実施・参加
～七養と七中、七養と七小・七高
- 研修会の推進と参加
～合同研修会、七中コンパクトゼミ
- ケース会議
～通常級児童生徒、要請に応じて七養 CO
- 授業検討
～七中支援級の授業内容を支援・検討
- 人材バンク
～体制構築の充実に向け両校教職員の情報を共有
- 事業推進についての校内の説明の仕方やアイディア
(1) インクル通信等で概要を伝える。
(2) 簡単な実施計画を作成し、掲示板等で連絡する。

説明に対する質問ならびに助言等

協議1：質問「七中体育大会のスローガンについて」

→回答 七中校長先生からの生徒会へのミッショ「インクルーシブを意識し、どんな人でも楽しめる体育大会にしよう」から「特支学級の生徒や七養先生との連携を意識した運営」を心掛けている。



質問「共同学習と行事参加の境目について」「両校の学習指導要領で重なる部分について」

→回答 教科により交流の側面が強いものもあるが、しっかり評価できる教科もある。指導要領の重なる部分は意識している。各教科担当者がそれを確認して話し合うことが重要である。

→助言：中学校の先生が特別支援学校の学習指導要領を見ている点が素晴らしい。国語や数学など知識の系統的蓄積が求められる教科での交流は難しいのではないか。知的障がいのある子どもたちは、経験値を積む体育や芸術系の方が交流しやすい傾向があるが、「可能な限り」という言葉の通り、個別具体的な視点も重要と考える（細谷教育大教授）。

協議2：七飯町内の小学校での通級指導教室設置の動きが進んでいる。今回の事業の取組が、小中学校の特別支援学級と養護学校との連携が深まり、子どもたちのためになることを期待している。七飯町教育委員会としてもこの事業をサポートしていく（倍楼七飯町教育委員会教育長）。

情報：相互授業参観について、七飯町内の小学校のICT活用や、七飯中学校や七重小学校で行われて

提供 いる探求的な学習の取組も参考にできると考える。

等 短期間での進歩に驚きと感銘を受けた。七飯養護学校の行事における言葉ではない部分での子どもたちの通じ合いや成長を、小学校の先生方にも見てほしい（七飯町教育委員会指導主事）。

協議全体を通しての感想と助言（高石特別支援教育課主任指導主事）

昨年度から「一気に加速した、印象を受けた。会議の在り方や参加者、両校の先生方が主体となっているところは大きな変化である。両校で校内研究のテーマとして本事業を扱っていただいている。今後、PDCAサイクルで進めるることは重要である。本事業の目的は、交流、授業や体制構築の「一体的な運営」であり、特別支援教育の視点を生かし、全ての子どもたちに分かりやすい授業づくりを目指す点にある。これまでの課題（実施回数の確保、共同学習の側面、評価の累積など）に対する見通しが示されたことに感謝申し上げる。

〈細川七飯中学校長より閉会の挨拶〉

本事業が「早咲きの桜も咲いている」ほどの手応えを感じている。令和7年度の学校経営方針に「インクルーシブが当たり前になる等身大の取組」として盛り込んだ。この取組が「指定事業だったからできた」ではもったいないので、七飯町だけでなく、他の市町村でも参考にできるような取組を目指したい。各委員の皆様には引き続きの御協力をお願いしたい。

【協議会委員】七飯町教育委員会教育長 北海道教育大学函館校教授 学校教育局特別支援教育課主任指導主事
道立特別支援教育センター知的障がい教育室長 七飯養護学校長・副校長・教頭・特別支援教育コーディネーター
七飯町立七飯中学校長・教頭・主幹教諭・特別支援教育コーディネーター

【オブザーバー】七飯高等学校長 渡島教育局特別支援教育スーパーバイザー 七飯町教育委員会指導主事 インクル実行委員会委員

共同学習始まる

～七飯中学校体育大会『インクルーシブ・サッカー』～



〈七生の感想〉

- 見ていてすごく楽しかったし、応援の声もたくさん聞こえて、すごくいいなと思いました（1年）。
- 入っても入らなくても認め合う雰囲気がよかったと思います（1年）。
- 簡単なのにルールがちゃんとしていて、誰でも楽しくできると感じました（1年）。
- 久しぶりに会ったけどちゃんと覚えていてくれたし、ボールを蹴った後も一緒に喜び合えてうれしかった。またやりたいと思った（2年）。
- 笑顔がたくさんあった。ペアの人が自然とフォローしていた。みんなが入る前で緊張したと思うが、周りから見て立派でした（2年）。
- 周りが応援してくれたり、七養の子とハイタッチしたりしてとても雰囲気がよかったと感じた（2年）。
- このように障害の有無で壁を作るのはやめたいと思った（3年）。
- 一緒に関わって、いろんな人たちとサッカーをする楽しさが味わえて、とても良かった（3年）。

〈七養の感想〉

- ○○さんと一緒にシュートをねらってゴールすることが楽しかったです。また一緒にサッカーがしたいです。また一緒にサッカーしようね。
- たのしかった（10人/11人）。がんばった（1人）。シュートがきんちょうした（1人）。シュートができた（1人）。